

「現和小学校の田之脇棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

西之表市立現和小学校

2 学年・人数

5・6年生（計19名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年7月9日～9月10日 現和小学校体育館，校庭

(2) 発表の日時・場所

令和4年9月20日（火） 現和小学校秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

田之脇棒踊り（たのわきぼうおどり）

(2) 由来

1885（明治18）年に山川から同市岳之田部落に松木甚助氏他5名の方々が移住されたとき，郷土山川の棒踊りを岳之田で披露したのがはじまりと言われる。勇壮なスピードある踊りは他の棒踊りの群を抜くと言われ，その後，縁故関係にある現和下之町部落，さらには田之脇部落の雄志達がこれぞ誠の田之脇の伝承芸能にと指導を受け踊り，今日に至ったと言われている。

(3) 構成等

6人1組で，陣形を変えながら2人が六尺，4人が三尺の長い棒を打ち合う力のこもった演舞。唄は7番まであり，同じ動きを繰り返す。衣装は，浴衣に襷をかける。六尺と三尺の棒を持つ踊り手の襷の色は違う。また，三尺の棒を持つ踊り手の右と左の綱の向きが違う。

5 保存会や地域との連携の具体

現和小学校の運動会では恒例のプログラムになっていて，毎年5・6年生が，田之脇棒踊り保存会の方々に指導していただき，地域の伝統を引き継いでいる。運動会当日は，保存会の方々数名が会場に来てくださり，生歌で子供たちの棒踊りが披露される。

また，校区内にある知的障害者更生施設たちばな園の運動会にも運営スタッフとして毎年5・6年生がボランティアで参加し，棒踊りを披露しているが，昨年度から感染症拡大防止等のため，活動を控えている。

さらに，今年度は，棒踊り体験だけでなく，棒踊りがどのように伝わったかなどについても保存会の会長をゲストティーチャーに招くなどして，学習する機会を設けた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、まず保存会との連携を密にしている。高学年担任を中心に、特に運動会前の事前練習の時間確保に努め、保存会の方々から子供たちが正確に踊りを教えてもらえるようにしている。

校区には9つの自治集落があり、それぞれの地域が継承する伝統的な踊りがある。夏休みには、子供たちが由来や表現の意味などを調べられるようにし、田之脇棒踊りだけでなく、自分の住む地域の伝統芸能にも理解を深められるようにした。

また、学校の運動会やたちばな園運動会、風本神社秋の大祭（隔年）、願成就等の地域行事等で、棒踊りの発表の機会の確保（継続性）に努めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



（保存会の方の指導）



（運動会発表）



（保存会長のお話）

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 棒踊り保存会の方が練習をしながら動作の意味を教えてくださいました。保存会の方の踊りは動作が大きくてかっこよかったです。実際に踊るところを見ることで刺激になりました。
- ・ 最初はみんなと動きを合わせられるか不安だったけど、本番では、今までで一番、息をピッタリ合わせられた最高に気持ちよかったです。

【教職員】

- ・ 地域の方や保存会の方の熱心な気持ちが子供たちに伝わり、本番では、その恩返しとして精一杯の踊りをすることができました。保護者の方々も子供の頃から踊っている棒踊り、何世代にも渡って踊り継がれることが素晴らしい。
- ・ 今年は、踊る体験だけでなく、棒踊りについて、なぜ現和校区で踊られるようになったのか、今後どうあってほしいのか、などについて、保存会会長のお話を聞くことができたことができて、さらに有意義だった。

【保存会の方から】

- ・ 現和小の子供たちと一緒に伝統芸能を伝えていけることに喜びを感じています。このような継承活動が、郷土への愛着を高め、また、地域の活性化にもつながっていると思います。